

新型コロナウイルス感染症対策の切り札として、ワクチン接種が進められています。この取り組みに対し、「足利市は遅いのではないか」というご意見をいただいています。

足利市では、昨年度 2 月の市議会定例議会で議員さんから「個別接種（市中の診療所等）も取り入れるべきだ」という意見がありましたし、担当課としても「集団接種 + 個別接種」で計画を立てていたそうですが、結果として「集団接種のみ」でのスタートという判断をしたようです。

残念ながら、まずはここで出遅れてしまったと考えています。

5 月 13 日に就任して以降、予約の前倒しやネット・電話予約枠の拡大等、予約方法を随時見直しながら進めてきました。

また、「個別接種」の実施について医師会に相談申し上げ、快く引き受けていただき、6 月 20 日から実際に開始していただきました。医師会をはじめ関係者の皆様方のご理解とご協力に感謝しております。

さらに、3 次救急病院である足利赤十字病院さんにも支援をお願いしたところ、こちらも快く引き受けていただき、毎週末に約 1000 人規模の接種を実施していただけることになりました。

この間、クラスター対策等の理由から、幼稚園や保育園の先生、福祉施設の入所者や

従事者、消防関係者をはじめとする方々への優先接種も進めてきたところです。

このように、足利市の担当職員が熱心に多方面に働きかけ、ご理解とご協力を得て、市中診療所の先生方による個別接種＋足利日赤病院の集団接種＋足利市民体育館での集団接種、を組み合わせた接種体制が整いました。

行政職員も、ワクチン接種という一大ミッションに対し、深夜までの業務、集団接種会場の設営等、全力で取り組んでおり、頭が下がる思いがしています。

しかし、ここにきてワクチンそのものの供給量が不足する事態となってしまいました。例えば、7月に国から配布されたワクチンの配布量（8月に接種）は6月分の半分以下（1万人分）と大幅に減少してしまいました。当初は医師会のご協力で2万人、集団接種で6千人の接種を計画していましたが、残念ながら計画を見直す事態となっています。市民の皆様には大変申し訳なく思っています。

栃木県と国に対しては、必要なワクチン供給量を確保してほしい旨を繰り返し要望していきます。当初の出遅れを取り戻し、ワクチン接種を希望する方々が早く、円滑に接種できますように働きかけてまいります。同時に、コロナ収束後の反転攻勢に向けての準備をしっかりと進めていきたいと思っています。

このところ、栃木県全体として、また足利市でも感染者が増加してきています。引き続き、マスク着用や手指消毒、3密回避などの基本的対策をとってくださいますよう、よろしくお願いいたします。